

弥生時代の米

弥生時代に伝わった米はどのようなものだったのでしょうか。鳥取県で弥生時代に作られた米は5か所で見つかっています。青谷町の青谷上寺地遺跡で見つかった弥生時代中ごろの溝から見つかった米を調べてみると、中国から朝鮮半島をとって日本に伝わったと考えられるものと、中国から直接日本に伝わったと考えられるものが混ざったものであることが分かりました。このことからいくつかの種類が日本に伝わっていることが分かります。



青谷上寺地遺跡で見つかった弥生時代の米

弥生時代の水田または米が見つかる遺跡



遺跡の名前	遺跡の場所	見つかったもの	遺跡の内容	問い合わせ先
いぶよしせき 岩吉遺跡	鳥取市岩吉	水田	弥生時代の終わりのころ(約1,800年前)の水田が見つかっています。また同じころの溝の中から木庖丁や竪杵が見つかっています。	鳥取市教育委員会 鳥取市上魚町39 0857-22-8111
あおやみじろいせき 青谷上寺地遺跡	青谷町青谷	水田・米	弥生時代の中ごろ(約2,100年前)の水田が見つかっています。また同じころの溝の中から米が見つかっているほか、鍬や鋤などの道具もたくさん見つかっています。	鳥取県埋蔵文化財センター
なかおいせき 中尾遺跡	倉吉市大谷	米	弥生時代の中ごろ(約2,000年前)のゴミ捨て穴から米が少量見つかりました。	倉吉市教育委員会 倉吉市葵町722 0858-22-8111
めくみいせき 目久美遺跡	米子市目久美町	水田・米	弥生時代の初めごろ(約2,400年前)から中ごろ(約2,100年前)にかけて水田の跡が見つかっています。水田の土の中からは当時の米が見つかり、周辺からは鍬や田駄などが見つかっています。	米子市教育委員会 米子市東町161番地2 0859-22-7111
いけのうちのせき 池ノ内遺跡	米子市美吉	水田	目久美遺跡の東隣にある遺跡で、弥生時代の終わりのころ(約1,800年前)以降の水田が見つかっています。また同じころの鍬や木庖丁などの道具も見つかっています。	
ながすなだいのせき 長砂第1遺跡	米子市長砂町	水田・米	弥生時代の初めごろ(約2,200年前)の水田の畦が見つかっています。また同じころの穴の中から米も見つかっています。	
ながすなだいのせき 長砂第2遺跡	米子市長砂町	水田	弥生時代の中ごろ(約2,100年前)から終わりのころにかけての水田が見つかっています。	
あおきいせき 青木遺跡	米子市青木	米	弥生時代の中ごろから奈良時代にかけての遺跡で、弥生時代の終わりのころ(約1,800年前)の竪穴住居跡から米が見つかっています。	

弥生時代の米作り

発行所
鳥取県埋蔵文化財センター
〒680-0121 鳥取県岩美郡国府町宮下1260
TEL 0857-27-6711
FAX 0857-27-6712
URL <http://www.pref.tottori.jp/maibun/>



目久美遺跡で見つかった弥生時代の水田の跡
(米子市教育委員会提供)



青谷上寺地遺跡で見つかった弥生時代の水田の跡

弥生時代の水田

水田で米を作る技術が朝鮮半島から日本に伝わったのは縄文時代の終わりのころのことで、福岡県や佐賀県の海沿いで最初に米を作るようになりました。鳥取県でも弥生時代の初めごろ(約2,400年前)には水田での米作りが始まったようです。

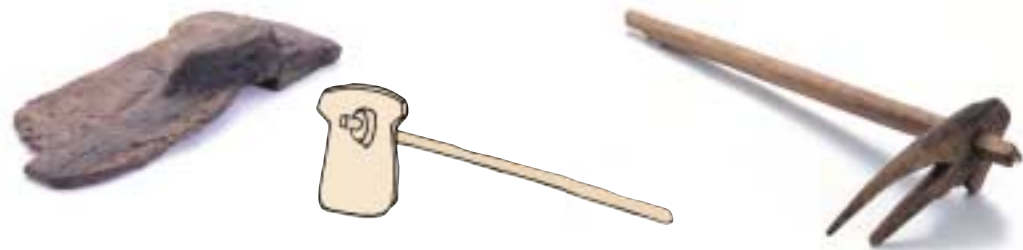
鳥取県内で弥生時代の水田の跡が6か所で見つかっています。米子市の目久美遺跡で見つかった弥生時代中ごろ(約2,100年前)の水田は、土を盛り上げた畦で囲まれていて、近くにある川から水路を造って水を引き込むようになっています。水田の形がきれいな四角ではないことと面積が狭いことを除けば、今の水田とあまり変わりません。

弥生時代の米作りの道具

鳥取県内の遺跡からは、弥生時代の人たちがどのような道具を使って米を作っていたかを知ることができます。

耕す道具

水田を耕すために使った鋤や水田をならすために使うエブリは、鉄が当時はまだ貴重なものだったこともあって木でできたものがほとんどでした。土を削ったりならしたりする部分はカシなどの堅い木を使って作られています。



木でできた鋤の先
(写真は柄を差し込む穴をあける前のものです。)

木でできた先の分かれた鋤



木でできた鋤(スコップ)の先

木でできたエブリの先
(水を入れた水田の地面をならす道具です。)

刈り取る道具

秋になると、イネを収穫します。現在は機械などを使って根元から刈り取っていますが、弥生時代には木や石でできた道具を使って穂の部分だけを刈り取っていました。



いしぼうちょう
石庖丁
(稲の穂を刈り取るための道具です。)



石庖丁で稲の穂を刈り取るようす

米ができるまで

水田を耕し、土を細かく砕く

水田に水を入れて土を平らにならす

水田に稲を植える

稲の穂を刈り取る

稲穂から籾を取る

籾殻を取り除いて米にする

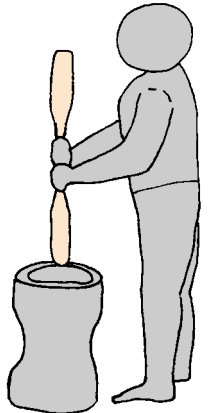
米を炊いてごはんになる

もみ 籾から米にするための道具

つみ取られた穂は、杵と臼を使って籾殻などを取ります。杵は長い棒状のもので、現在餅つきなどで使うものと形が違います。



たてぎね
縦杵(籾から殻をとって米にするときなどに使う道具です。)



縦杵を使っているようす

このほかにも、米作りに使われていたものがあります。例えば、つみ取った稲穂をのせて運んだ舟の形をした道具や、水田を歩く時に足につけた道具が見つかっています。これらの道具は、弥生時代の水田が今よりも土が軟らかくぬかるんでいたために使われたものです。



田舟

水田から刈り取った稲の穂などを運ぶための道具ものです。右半分は欠けています。



田下駄

(水を入れた水田の地面を歩くために使った道具です。)